

年間70隻以上の大型クルーズ船の寄港に向けて
 ～八代港において官民連携による国際クルーズ拠点を目指します。～

熊本地震を踏まえ、県は国に対して八代港に耐震強化岸壁の整備を要望して参りました。現在、国において事業化に向けた取組みが行われているところです。

この耐震強化岸壁については、平時はクルーズ船の専用岸壁として利用できるよう、国と協議しながら取りまとめてきました。

今般、国の新たなクルーズ拠点形成に関する制度を活用して、この岸壁とその背後地(約16ha)を世界第2位のクルーズ船社である「ロイヤルカリビアン・クルーズ社」と連携して国際クルーズ拠点として整備していく予定です。これにより、八代港のクルーズに関する拠点性が高まっていくものと考えております。

1 国の新たなクルーズ拠点形成に関する制度

国交省は、国際クルーズの拠点形成を促進するために、有識者等からなる委員会を設立し、民間の需要を取り込んだ新しいプロジェクトスキームの検討を始めました。

その内容は、下記の組み合わせによるクルーズ拠点の形成です。

- 公共による受入環境の整備（岸壁等インフラ整備、岸壁の優先使用等）
- 民間による投資（旅客ターミナル、商業施設等）

2 熊本県の取組み

県は、世界第2位のクルーズ船社「ロイヤルカリビアン・クルーズ社」と連名で、八代港の拠点形成に係る計画書を提出しました。

【今回の計画概要】

①対象地区

八代港の外港地区のうち、約16ha

②整備内容と期間

2段階に分けて整備を実施

《第1期》平成32年3月まで

国：耐震強化岸壁

(平時はクルーズ船の専用岸壁)

県：大型バスの駐車場等を整備

船社：旅客ターミナル(商業施設を含む)

《第2期》第1期後、クルーズ船の寄港状況により時期を検討

県(または国)：更なるクルーズ船専用岸壁

船社：集客施設



クルーズ船専用岸壁(22万トン級)



3 期待される効果(計画書が国に認められた場合)

●現在は、貨物船とクルーズ船で外港地区の岸壁を共同利用していますが、この計画が完成すれば、クルーズ船の拠点となる人流ゾーンと、工業港としての物流ゾーンが形成され、それぞれに機能向上が見込まれ、八代港の魅力と国際競争力がさらに高まります。

●国の制度を活用できれば、クルーズ船の寄港数の増大が見込まれます。